



ippo(いっぽ)

【全校の研究テーマ】 一人一人が学んだことを実感し、自分から行動する姿を目指して
～各教科等の指導を支える自立活動の視点から～

今回は高等部分科会を紹介します。

高等部分科会より

協議テーマ①目指す姿が授業のなかでどのように表れていたか

【一人一人(特に抽出生徒)が学んだことを実感し、

自分で考え、判断して取り組む姿】

②そのための手立て(学習活動、場の設定、教師の働き掛け)はどうだったか

<ワークショップ>

★授業説明から★

- ・慣れない状況や環境での意思表示、言葉遣いや関わり方に課題はあるが、これまでの経験や学習を通して学年集団の中では自分の意見を伝え、生徒同士で関わりながら学習できるようになってきた。
- ・八郎潟町の事業所「はちらぼ」の協力を得て、さばトーストを販売した。夏まつりや学園祭、アルヴェでの販売を行ってきた。繰り返しの単元を段階的に発展させたことにより、生徒が自分の目標、役割を理解して改善する姿が見られた。今後、買っていただいたお客さんからのアンケートで他者評価も取り入れ、よりよい活動にしていきたい。



★協議から★

- ・繰り返しの活動により授業の流れが定着していた。付箋紙に書いた全員の考えを基に意見交換したり、よりよい接客のためにできることを話し合ったりして、さばトーストの販売に向けて協力しながら取り組む姿が多く見られた。
- ・付箋紙の活用や「はちらぼポイント」の効果的な提示により、話し合いや接客の仕方などについて自分たちで考え、判断して活動に取り組む姿が見られ、これまでの学習の成果が出た。

<指導助言> 秋田県立秋田きらり支援学校 教諭(兼)教育専門監 島津 憲司氏

- ・生徒の目指す姿を引き出すために子ども理解シートで明らかになった自立活動の手立てを取り入れ、困難さに配慮した授業作りが行われていた。子ども理解シートは生徒の困難さだけでなく良さも生かしている。学習指導案や個別の指導計画、実態表などにも活用でき、指導の在り方にも表れてくるのではないかと。子ども理解シート作成において、生徒の実態は日々の様子観察から読み取り、地域支援部とも協力してWISCなどの知能検査の結果からも客観的な実態把握、情報から検証することも大切になる。
- ・これまでの経験を生かし、「さばトースト」販売の単元はより発展的に積み重ねられている。生徒は自分の役割を果たすだけでなく、一人ひとりが責任をもって行動するために「お客さんに喜んで買ってもらう」という意識を集団として高めながら個々の活動を改善させていくことを狙って展開されているところが非常によかった。年間指導計画検討会やベースミーティングを通して高等部の発達段階を考慮し、将来の生活を見据えた高等部らしい単元である。
- ・付箋紙を使った話し合い活動は以前よりスムーズに進められていた。指導案にもある通り、自分の考えを記入する際には教師が言葉を補ったり、書きたいことを整理する支援をしたり、即時評価をしたりする場面を取り入れる等の自立活動の支援が必要であり、大切にしていきたいところだと感じた。

